

平成20年度 防災教育の取組

～はじめに～

本校は、地域防災の担い手として貢献できる人材の育成をめざして、平成19年度より、県教育委員会から「防災教育拠点校育成事業」の指定を受けています。

取組のねらい、3年間の実施内容、今年度の取組を紹介いたします。

1 目標

① 三年間のビジョン

地震・津波に対する科学的な知識と危機意識、生命の尊重と自助・共助の精神を持ち、事前防災や災害発生後の活動に積極的に取り組む人材を育成するために、次のような教育活動を研究・検証する。

・講演会・視聴覚教材（全校生徒対象）

震災体験者、避難生活体験者、地震・防災学者、ボランティア活動、被災地の様子、等

・訓練・体験

避難誘導、救助活動、応急手当、災害体験、避難所体験、等

・見学

津波防災教育センター、人と防災未来センター、北淡町震災記念公園、等

・机上学習

一斉読書（「稲むらの火」など）、ワークシート（災害シミュレーション、我が家の防災対策等）

・地域での活動

消防署等との連携、町歩き、防災マップの制作等

・教科や学校行事との連携

理科における地震・津波のメカニズム、地歴における地形や歴史、保健における救助・手当、文化祭でのクラス発表、2年学習発表会での取組、ロングハイキング、等

・その他

図書 の 充実（「稲むらの火・防災」コーナーの充実）

② 平成20年度の目標

(1) 防災教育リーダーの育成

市民委員等に校内のリーダー的役割を担わせ、主体的に取り組ませることにより生徒会組織の活性化を図る。

(2) 地域交流…発信から協働へ

地域関係者、中学生等を対象にした「防災教育」の取組に係る発表会を開催したり、「稲むらの火祭り」に積極的に参加したりしていくこと等により、地域に情報を発信し、次年度における協働体制構築につなげる。

(3) 「総合的な学習の時間」等における取組の充実

2年生の学年発表会において、「防災教育」をテーマの一つとして取り上げ、課題発見力・課題解決力・プレゼンテーション力等をはじめとする「生きる力」の基盤となる能力育成のための取組の一環として「防災教育」を位置づける。

2 平成20年度の活動内容

【取組概要】

	1年生	2年生	3年生
4月	防災アンケート(4/24)	「人と防災未来センター」 見学(4/28)	
6月	一斉読書①		
8月	防災リーダー研修(8/8) 「北淡震災記念公園」(北淡町)・「人と防災未来センター」(神戸市) 見学・研修		
	防災リーダー等による「高校生防災スクール」参加(8/19)		
10月	「総合防災学習・訓練」(10/14) 避難訓練・講演会・体験学習(起震車・煙等)・防災朗読劇等		
	「第5回 稲むらの火祭り」ボランティア参加(10/18)		
11月	一斉読書②		
12月	「津波防災教育センター」 見学とフィールドワーク (12/10~12/12, 2クラス毎)	「総合的な学習の時間」 に係る学年発表会への取 組(～2月)	一斉読書③と感想文作成 防災学習の総括(アンケ ート実施等)
	「田辺市内高校生防災フォーラム」参加(12/12)		
	「防災教育拠点校実践発表会」の開催(12/21)		
2月	今年度の防災学習の総括	「総合的な学習の時間」 に係る学年発表会(2/12)	

【主な取組】

(1) 防災リーダー研修

今年度の重点目標の一つに「防災教育リーダーの育成」を掲げ、市民委員等に体験的学習を積み、問題意識を高め、表現力等を高めることにより、校内におけるリーダーとしての自覚をもたせ、学校全体の防災教育の活性化を目的とし、リーダー育成のための取組を行ってきました。

8月8日(金)、防災リーダー育成のため、



＜北淡震災記念公園にて＞

生徒61名が「北淡震災記念公園」(兵庫県北淡町)と「人と防災未来センター」(神戸市)を訪問しました。この体験と学習は地震災害の実態についての理解を深め、災害時に高校生がどんな役割を果たすことができるのか等、様々なことを考える契機となりました。

(2) 「総合防災学習・訓練」

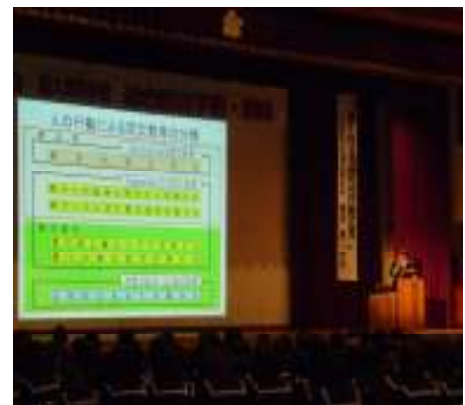
10月14日(火)、本校の防災教育の取組における最大の行事である総合防災学習・訓練を後期始業式に続いて開催しました。

午前中は全校生徒が体育館で同窓会有志のみなさんを中心に生徒と職員も加わった防災朗読劇「生ける神 濱口梧陵」と防災ビデオを鑑賞。朗読劇は迫真の演技と優れたスライドや音響効果等もあり生徒たちは熱心に聞き入っていました。



<朗読劇「生ける神 濱口梧陵」>

昼食後、地震と火災の発生を想定した避難訓練が行われ、あいにくの雨の中、学年別に体育館と武道館に避難し、消防署員の方から講評をいただきました。



<講演「夢みる防災教育」>

午後は、学年別のプログラムとなり、1年生は湯浅広川消防組合のみなさんの協力と指導により防災実技訓練を行い、クラス別に①消火訓練、②起震車体験、③ロープワーク、④119番通報訓練、⑤担架での搬送、⑥煙体験の6つのプログラムに取り組み、体験の中で実際的な防災技術を学ぶことができました。2・3年生は、兵庫県立舞子高等学校の諏訪清二先生から「夢みる防災教育」と題する講演をしていただきました。その中で、阪神淡路大震災において、救助された方々の殆どは近所のみなさんに助けられたという事実や同校環境防災科の生徒のみなさんの活動等を知る中で、自分の命を守り、サポーターとなるために「自分たちの命は自分たちで守る」という「自助」の精神と「日常的に社会に参画することの大切さ」を学ぶことができました。

(3) 「稲むらの火の館」見学とフィールドワーク

12月10日(水)～12日(金)の午後、1年生が2クラスずつに分かれてフィールドワークを兼ねた研修を行いました。

初日の10日(水)、1年生5組・6組の生徒40名が引率教員4名とともに、学校を出発、途中、湯浅町内の「熊野古道」を歩き、身近な「世界遺産」を感じながら、広川町の「稲むらの火の館」に到着。津波防災教育センターでは、3D津波映像シアターや津波シミュレーション等での体験や様々な展示により、津波襲来

時の様子や被害の実態等を学びました。

濱口梧陵記念館では、貴重な資料と展示物等により、本校創立者の一人である濱口梧陵先生の偉大な業績と教訓を改めて学びその人柄にふれることができました。

帰路、梧陵先生が巨額の私財を投じ築くことにより、津波で荒廃した広村が奇跡の復興を成し遂げるようになった「広村堤防」を訪れ偉大な業績を偲びました。

机上の学習を具現化した今回の研修は、生徒たちの今後の学習活動の糧となりました。



<津波シミュレーション>

(4) 「防災教育拠点校実践発表会」

12月21日(日)午後、本校会議室において、県教育委員会健康体育課岨山副課長、中村指導主事、県立学校課前田指導主事にご出席をいただき、県内6校(新翔、田辺工業、有田中央、箕島、海南、耐久)の各高校から生徒教員86名の皆さんの参加を得て、初めての試みとなる本校主催の実践発表会を開催しました。



<新翔高校の発表>

拠点校3校(新翔、田辺工業、耐久)の生徒がそれぞれの取組を発表し、有田中央高校の上山容江先生が「総合的な学習の時間」における防災教育の取組を発表された。各校生徒の発表は、それぞれの学校の取組内容、特色等がよくわかる優れたものでした。



<田辺工業高校の発表>

本校生のロープワーク、簡易担架の実演は、学習の成果をその時だけのものに終わらせない取組として評価を得ました。

参加各校の協力と県教委の先生方の支援により、拠点校の生徒たちが、県内の高校生との交流を通じて、防災意識を高め、減災に関する情報の共有化を図り、地域における「共助」の担い手としての資質を高めるという当初の目的を果たすことができた発表会となりました。



<耐久高校の発表>

(5) その他

①「高校生防災スクール」参加

8月19日(火) 海南高校

参加生徒 防災リーダーを中心とする10名
教員 5名

- ②「第5回 稲むらの火祭り」ボランティア参加
10月18日（土）
参加生徒 17名、教員3名

- ③「田辺市内高校生防災フォーラム」参加
12月12日（金）紀南文化会館
参加生徒 防災リーダー5名、教員2名

- ④一斉読書
全校生徒が年間をつうじて2回以上実施



<ロープワークの実演(耐久高校)>

3 成果及び地域への普及について

(1) 成果

①「防災リーダー」の育成と自主活動の活性化

市民委員と有志の生徒たちを「防災リーダー」と位置づけ、校内の防災リーダー研修をはじめ、各種行事等に積極的に参加させた。その結果、防災リーダーの中に「防災教育拠点校発表会」等の防災教育に関連する行事に主体的・積極的に取り組んだり、生徒会活動・クラスのHR活動等においてに中心的な役割を果たしたりすることによって、本校の特別活動の活性化に寄与する生徒が育ってきた。

② 外部団体等との協働による取組の深化

・本校同窓会との協働

「総合防災学習・訓練」において、親や祖父の世代の本校の先輩方と協働して防災朗読劇「生ける神 濱口梧陵」に取り組んだことは、本校の生徒たちにとって異年齢集団との関わりの中で多くのことを学ぶ貴重な機会であり、同窓会会員の皆さんに本校の「防災教育」の取組を知っていただくよい機会となった。

・「稲むらの火祭り」ボランティアへの参加

1年生10名が炊き出しの補助、2年生7名が松明の持ち手にボランティアとして参加した。地域の歳事に参加することにより社会貢献を体験することができた。参加生徒から来年度の積極的な参加を望む声が多かったことは大きな収穫であった。

・「防災教育拠点校実践発表会」の開催

当初は、広範囲の参加を期待し、地域の中学校等に呼びかけたが、日程の関係等により結果的に高等学校だけの取組に終わったが、本校主催で行ったことにより、生徒たちの達成感は大いなものがあった。また、防災教育に取り組む学校等において今後のネットワーク形成の契機になった点でも成果があった。

③「総合的な学習の時間」における取組の充実

「総合的な学習の時間」として位置づけている2年生の学年発表会において、発表のテーマとして防災に関連する事項を取り上げた生徒が19名(昨年度は皆無であった。)となり、防災リーダーを中心に優れた内容の発表をする生徒も現れた。このことは、「防災教育」の取組において、生徒の課題発見力・課題解決力・プレゼンテーション力等を育成することに一定の成果があらわれはじめたと考えることができる。

(2) 地域への普及

「防災教育拠点校実践発表会」の開催により、地域の高等学校への普及については、一定の成果があった。

また、中学生対象の学校説明会、本校教員による中学校訪問時に防災教育の取組を紹介し、年度末には、ホームページに記載する等により普及を図っている。

地域の小学校や町内会等への普及については、顕著な成果をあげることはできなかった。次年度の課題としたい。

4 今年度の課題

(1) 地域への普及

地域交流と普及が今年度の最大の課題である。次年度は、もともと多い独自の学校行事を精選し、実施する行事については、防災教育の成果を地域に普及させる観点から取組の見直しを図っていく。

特に、「総合防災学習・訓練」や「実践発表会」をより地域に開かれたものとし、「稲むらの火祭り」に学校をあげて参加する等、地域社会との協働に積極的に取り組んでいく。

(2) 「防災教育」の教育課程上の位置づけ

「総合的な学習の時間」における位置づけを再検討するとともに、新学習指導要領を踏まえた抜本的な教育課程改定の検討に際し、「防災教育」を本校教育の柱の一つとして位置づけ、本事業終了後も継続・深化させる観点から、新教育課程における「防災教育」の位置づけを図る。

～おわりに～

2年目になる本校の防災教育の取組の概要を掲載しました。まだまだ不十分な点も多いかと思えます。今後の参考とさせていただくため、ご意見、ご質問等がございましたら、下記連絡先までお寄せください。よろしくお願いいたします。

(文責、教頭 森本 清仁 平成21年3月9日)

連絡先 vice-principal@taikyu-h.ed.jp